

山行報告

◆氷ノ山・スズコ採り

日 時：5月26日（土）～27日（日）

リーダー：砂川

コース：1日目 高砂運動公園⇒奈良尾の氷ノ山国際スキー場～東尾根登山口
～神大ヒュッテ（泊）

2日目 神大ヒュッテ～氷ノ山山頂～氷ノ山越～小豆ころがし～福定親水公園
～氷の山国際スキー場～東尾根登山口

氷ノ山：スズコ採りに参加して

中嶋

氷ノ山は、標高 1510m の県下最高峰の山です。

成因は 300 万年ほど前に活動した海底火山と考えられ、山頂近くにある古生沼が火口跡ではないかと思われています。

5月26日 昨日の雨も上がり、薫風香る晴天の下 7:30, 11 名が砂川車、今山車, 利弘車に分乗して別所サービスエリアを出発、播但連絡道、和田山、ルート 9、を經由して氷ノ山国際スキー場に向かいました。途中、トイレ休憩、ビール等購入して、9:40 奈良尾キャンプ場に到着、それぞれ分散してゲレンデやキャンプ場で、ワラビ、ウド、フキノトウ等の山菜採りを楽しみました。11 時頃予定より早目に切り上げ昼食となりました。

11:30 登山の準備にかかる。車は奈良尾キャンプ場に止め、20 分後ストレッチ体操をして出発した。少し行くと東尾根登山口の石碑があり、ここで全員の写真を撮ってから、神大ヒュッテに向かって登山を始めました。

山道は広く、木の階段が上の方まで続いている。疲れが出ないように出来るだけ足もとを見て登ることにした。40 分後に東尾根避難小屋に到着、10 分間休憩を取る。ここで山頂方向が変わるためシルバーコンパスを調整し設定しなおした。

ここから尾根伝いに歩く、杉の木、ブナの木の間にドウザンツツジ等が咲いていた。1 時間後、2 回目の休憩を 10 分間取った。

場 所	着時刻	発時刻
別所サービスエリア		7:30
氷ノ山国際スキー場	9:40	
山菜取り		11:30
奈良尾キャンプ場	11:40	11:50
東尾根登山口		11:55
東尾根避難小屋	12:35	12:45
人面岩前	13:45	13:55
神大ヒュッテ	14:15	
神大ヒュッテ		8:15
氷ノ山 山頂	9:00	9:20
氷ノ山越え避難小屋	10:15	10:30
地藏堂	11:20	11:30
親水公園	12:15	
高砂	17:00	

山行中多くの下山者と会う、若い人から中高年まで、4～5人のグループから10人以上のグループもあった。皆、道を譲ってくれる“こんにちは”と挨拶をして気持ちよくすれ違う。多くのグループで熊よけの鈴音が聞こえた。**(団塊の世代の退職が始まったら山が満員になるだろうと云う人がいたが、かくありなと思えるほどの多さであった)**。又、幾度も小さい沢を横断した。

その後30分程登ると神大ヒュッテに到着した。少し待っていると、程なく神大OB4人も到着、鍵をあけてもらう。先週も利用したので水道は正常に使用できるとのことであった。各自わかれて点検やストーブのマキの準備をした後、近辺の笹藪でスズコ採りをする。

「スズコ」ネマガリタケの新芽、なぜスズコなのか？この竹の子は熊の好物で、人とよく鉢合わせになることから、竹の子採りには必ず鈴を付けて行くところから、呼ばれるようになったらしい。

3:30頃より、女性軍、舛賀さんを中心に、ホルモン焼きと山菜等の料理を作る。ビールで乾杯後食事となった。食事中に本日が砂川会長の68歳の誕生日であることが発表され皆から祝福される、又松下さんから誕生祝いのケーキの差し入れがあった。

6:30 楽しかった食事も終了したので、2階で3人、1階で12人と別れて寝る事となり、それ



ぞれシュラフ等準備した後、ダベリや合唱をして10時頃就寝した。

5月27日 6時起床、本日も晴天である。朝食にホタテリゾットを食べる。

7:15より1時間、再度土産用にスズコ採りをする。今度は皆要領良く沢山採って来ていた。

8:15ストレッチ体操後、神大OBの見送りのなか、舛賀さんを先頭に山頂を目指して出発した。40分程で山頂に到着、一番乗りであった。避難小屋と展望小屋がある。360°の大パノ

ラマが開け大山、鉢伏山、丹波の山々が見えた。只、黄砂の影響で見たかった日本海が見られなかったのは残念であった。山頂の斜面一帯から低い笹藪が続きそこにロープが張られ下記の札がぶら下がっていた。

『氷ノ山北東斜面は西日本唯一の湿原です。富栄養化すると貴重植物が絶滅するので周辺で用いないでください。』皆が注意し、気を付けたいものである。

9:20 車の3人は今来た東尾根コースへ、残り8人は親水公園コースへと分かれた。我々は山頂から見えていた避難小屋を目指して木製階段を下って行った。道は、ところどころぬかるんでいた。コシキ岩、仙谷コースの合流点を過ぎると、ブナ林の道となり緩やかな下りが続く、時折ウグイスや名も知らぬ鳥の声がきこえ、1時間後氷ノ山越避難小屋に着いた。**氷ノ山越えの道は「伊勢道」と呼ばれ、昔は因但の間道でお伊勢参りの道だったようである。**立派な地藏さんと石仏が置いてあり歴史が感じられた。ここでも多くの登山者と出会う、この交差点を右折し、ブナ林の中を下って行く、岩の間を流れる弘法の水もあり、時々ぬかるんだ所を通過。又昔誰かが小豆を落としつついたと思われる小豆ころがしの下りはかなり段差があった。50分後トタン囲みの地藏堂に着き10分間休憩する。**この地藏堂で、かの加藤文太郎（彼を主人公にした小説の題名は？）も泊まったことがあるという。**

杉林をしばらく行くと谷川のせせらぎが聞こえてきた。急な下り坂がつづら折に続き、右奥に不動の滝、左横に布滝が見える、ここは、今冬、

単独行の地元女性が遭難死した所である。
まもなく登山口キャンプ場にたどり着いた。ここで昼食（おにぎり）を取る。親水公園で別コース隊と合流した後、地元浴場で入浴、さっぱりした気分での帰路についた。

今回の山行はスズコの土産もあり楽しかったです。私も体力に自信が付きました。



◆魚住中学「トライやる・ウィーク」に取り組んで

砂川

期日：6月4日（月）～8日（金）

時間：午前9時～午後3時

今年度受け入れ生徒数：13名（男子）

行動日程（今年度の取り組み内容）

6月4日（月）オリエンテーションと活動計画の作成

6月5日（火）播州の山を歩く （1）高御位山縦走

6月6日（水）サイクリング 県立志方自然公園往復

6月7日（木）晩秋の山を歩く （2）小野アルプス縦走

6月8日（金）加古川漕艇センターでナックルフォア体験、お別れ会と反省会



「トライやる・ウィーク」は今年で10年を迎えています。

私が最初にお手伝いをしたのがこの魚住中学で、2000年の6月からでした。これは本当にひょんなことから始まりました。私の友人（自転車の仲間でもと教師）が引き受けていたこの行事でしたが、怪我をして生徒を連れて行くことができない状況となり、その部分を手伝ってこないかという要請を受けたのが始まりでした。

この「トライやる・ウィーク」について少し紹介しておきましょう。

対象となる生徒は中学2年生です。「トライやる・ウィーク」の実施月日の6ヶ月前頃から、各教育委員会が市町村の広報を通じて「トライやる・ウィーク」の受け入れ事業所を募集しています。実際は担当の教師が依頼のために事業所を廻り、生徒数に見合う事業所を確保しているようです。

中学校は確定した受入れ各事業所に生徒の希望を聞きながら割り振っているようです。

一般的には、何処の中学も学校の近辺にある工場や商店、また病院、市役所、消防署などの公共的な職場などの事業所で就業体験を実施しています。

仕事の内容、仕事に対する厳しさなどの就業体験を通じて、将来の自分について、自分の可能性について考える機会を作ることを狙いとしています。

「自分探しの旅」という副題もついていて、私たちが行っている登山、ハイキング、サイクリング、漕艇などを通じて、自分の可能性や将来の希望を考える上で良い機会となっているのではと考えています。

高御位山遊会の取り組み内容について少し見てみましょう。

まず初日のオリエンテーションですが、サポートと受け入れ生徒の自己紹介、アンケート、地図の見方、昼食を挟んでサイクリングで使用する自転車の点検、後4日間の計画の説明と作成など行います。ここで4日間の行動日程について具体的に集合場所や現地までの交通方法、時間、運賃などを提示しておきます。

2日目播州の山を歩く(1)は高御位山縦走です。JR宝殿駅9時集合、揃ったところでサポートの紹介と本日の行程上の注意など行い出発します。今回は何時もの魚橋でなく、西神吉の辻から入山しました。下山は阿弥陀(豆崎入口)国道2号線ローソン前でした。

3日目サイクリングです。出発は魚中前8時30分です。稲美町に抜け上荘橋、権現ダム、県立志方自然公園(昼食と休憩)を往復しました。従来帰りのコースに使っていた明姫幹線ではなく、権現ダムからルートを変え上荘橋に抜け帰りました。

4日目播州の山を歩く(2)小野アルプスです。JR加古川線電車を指定し小野町9時38分到着、駅前でミーティング、入山は小野市来住町から紅山、紅山の岩盤を登り北へ抜け、小野富士からユピカ温泉に下山しました。ユピカ温泉で休憩後、JR市場駅より帰路につきました。

5日目は加古川漕艇センターでナックルフォアです。8時30分集合で現地まで自転車で行きます。

当日は稲美中のトライやるのメンバーや上荘中などと一緒に、広い河が大混雑の中での体験となりました。天候の加減から昼食はサポートのメンバーにカレーを作ってもらい、お別れ会と反省会をしました。いろいろトラブルはありましたが、怪我無く終了したことが何よりでした。

中学2年生という人生で一番感受性の強い時期に、自然に触れこれら野外を舞台とした行動体



紅山の急斜面を四つん這いになって登る生徒たち



紅山山頂で一休み

験から、自らの将来の姿や夢を実現する機会となってくれることを願っています。

これからも私たち高御位山遊会の地域社会とのかかわりの一つとして、内容に工夫を加え、目的を明確に持ち取り組んで行きたいものです。